

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 5月 15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200445		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑五日市八幡		
所在地	広島市佐伯区八幡5丁目16番地10号 (電話) 082-927-8400		
自己評価作成日	平成30年4月27日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200445-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年5月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な住宅街の中にあるホームです。玄関に入ると歌声、笑い声が聞こえてきます。採光や風通しの良いリビングでは、ゆっくり過ごしたい方の心地良いスペースとなっております。お一人おひとりのなじみの生活を大切に、本人・ご家族の要望に添った個別ケア、良質なサービスが提供できることを目指しております。地域の方のご協力も頂き、町内の行事に楽しく参加させて頂いております。家庭的な雰囲気の中で穏やかに生活して頂けるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

傍には八幡川が流れ、山々に囲まれた落ち着いた環境の中、季節毎の町内行事に参加し地域との親密な関わりを継続しつつ、共助の関係を大切にしながら利用者の穏やかな暮らしを育てている。専門家による歌や演奏などの音楽療法や、カレンダーづくり・歌レク・運動会、他のレクリエーションをふんだんに取り入れ、利用者と共に楽しみ有意義な時間を過ごす取り組みに重点を置いている。広々とした庭園では日光浴をはじめ、栽培した旬の野菜を収穫する喜びや、四季折々の花を愛でる感性豊かな日々を過ごしている。地域関連機関のバックアップ体制も充実し、運営推進会議には、毎回社長及び複数の職員が参加し、家族・関係者や専門職ほか多くのメンバーで活発に意見交換がなされ、より良い運営やサービスの質の向上に尽力している事業所である。

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	開設時職員で作った「理念」を毎朝の申し送り時に唱和し、理念に沿ったケアが出来るよう努めている。	「地域に寄り添い、笑顔と思いやりをもって、やすらげる環境の中で、生きがいのある生活を支援する」という理念の意図するところを見つめ直して共有の強化を図り、日々のケアの中で職員間の意識統一に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入している。毎月2回の有価資源ごみ収集に利用者様と一緒に協力している。神社の秋祭り、町内会主催の餅つき大会、ぜんざい会には利用者様も参加し交流を図っている。	町内会の役割も担い、日常的な散歩でのふれあいや地域の季節行事への参加など自然な交流が継続されている。散歩中に野菜や花をいただいたり、世代を超えた関わりや親密な関係性を深めている。交流スペースを活かした地域との連携も視野にいれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年3回のペースで行っている「施設見学会相談会」を実施し、認知症への理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では出席された地域の方、ご家族から一言ずつお話を頂き教えることもあり、会議で頂く意見はスタッフ会議で全員に伝達し、今後のサービス向上に努めている。	毎回のように社長と複数職員の出席する当会議には家族・地域代表者ほか、多くのメンバー構成により、充実した内容やテーマづくりのもと活発な意見交換がなされている。各種専門分野の講師による勉強会も組み込み、会議後に家族会を催すなど有意義な時間としてサービスの質の向上に活かされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	2ヶ月に1回の運営推進会議に、地域包括支援センターの方へ出席して頂き、苑でのサービスの内容を把握して頂きアドバイスを頂いている。	運営推進会議への地域包括支援センター職員への参加をはじめ、普段から相談・手続きなどで密に連携している。区のグループホームネットワークに参加し、地域ぐるみでの勉強会や貢献参加について研鑽を重ね交流を深めている。交流スペースを活かした更なる協力関係の取組みを考慮している。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設時より職員全員に身体拘束は行わない方針を周知している。玄関の施錠についてはやむ得ず施錠しているが、中庭の扉については開放し、自由に入りして頂いている。	施設内の行き来や庭園への出入りも自由で開放的であり、スピーチロックにも留意しなるべく制約を加えない見守りによるケアに努めている。日々のケアの中で振り返りを行い、職員間で身体拘束を行わない意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のスタッフ会議で「虐待の芽チェックリスト」を記入し自分自身日々のケアを振り返り反省を話し、スタッフ全員で共有し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会の伝達報告にて情報を共有している。又、広島市よりの成年後見人制度のパンフレットを受付に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時は施設長、計画作成担当者、利用者側2名で十分な時間をとりながら説明し、ご家族の理解・納得して頂くように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的にご家族の面会が多く、その都度ご要望をうかがえる環境にあり、運営推進会議、家族会に於いても地域の方や外部の方に意見を頂くようにし、運営に反映させていくように努めている。	訪れやすい雰囲気づくりや面会時などには意向・要望が出しやすい環境づくりに努め、家族との良好な関係性を構築している。ほのぼのの通信では笑顔満載の写真入りで日頃の様子を伝え、コミュニケーションを図っている。家族他からの貴重な意見を集約し運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の定期的に関くスタッフ会議には必ず代表取締役の出席を仰ぎ職員の意見や提案が届くように配慮している。	社長出席のもと毎月スタッフ会議を開催し、職員が所属する6種委員会を通しての報告・提案など職場改善に向けた意見交換を行っている。各ユニット間で利用者に関する情報共有を強化しケアの統一を図り、利用者目線の行き届いた支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人の勤務希望を配慮し労働しやすい条件を組んでいる。代表者は賞与等に日頃の努力、実績を反映させ職員の向上心を上昇させるべく整えている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員に必要な研修を受講できるよう配慮している。受講後、スタッフ会議で全職員に伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	佐伯区グループホームネットワークに参加し、同業者と情報交換をおこなっている。グループホームネットワーク主催の講演研修会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前又は、入居時ご本人と面談を行いどのような生活を望んでおられるかを確認し、環境の変化や日常の不安に耳を傾けることで安心して生活して頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前よりご本人・ご家族と面談の機会を多く設け、ご本人・ご家族の不安などあればお聞きし、相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人の「ADL」と、ご家族の思いを正確に把握した上で必要な支援は何か総合的に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で食事作り、後片付け、掃除、洗濯干し・たみ等、利用者様が出来る事は積極的に声掛け、一緒に行い家庭的な雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた時や電話が入った時等、苑での日常生活やご本人の思いなどをお伝えし、ホームの職員も一緒になって支援するように心かけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	なかなか会えない人と電話で話され、関係作りを維持されている。	思い出話しから墓参りや懐かしい場所に出かけ旧交を温めるなど、個別ケアとして笑顔の増える場面づくりに取り組んでいる。ボランティアの受け入れを増やし、ふれあいの時を充実できるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	自然と気の合う同士が相談しあったり、励まし合われたりされる場面が多くみられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了後も、必要に応じて相談を受け少しでもお力になれるよう努力している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや意向はご本人に確認したり、ご家族に聞き取ったりして把握に努めている。日常生活の中から表情等から言葉に出されない思いを把握し職員間で情報を共有している。	普段のさりげない会話や仕草・表情などから思いを汲み取り、暮らし方シート・介護日誌に記し、一人ひとりに寄り添う支援に努めている。個々のメモリアルストーリーや家族からの聞き取りを加味しながらアセスメントにつなげ個別ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を用いたり、入所前どのように暮らしておられたのか本人様、家族様にお聞きして生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者一人一人の身体、生活状況の変化を介護記録に残し、職員間で話し合い現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の意向、職員による評価、気づき等交えた情報を密にご本人の現状に合ったケアプランを作成している。	日々知り得た情報やバックグラウンドを基に、個々のニーズに沿ったプラン作りを行い、定期的に見直しチームケアに反映させている。ケアプラン実施表を活用し、スムーズな介助・本人本位の心地良いケアへの意識付けや実践に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプラン実施表作成し、介護計画に添ったサービスの実施・気づきなどを記録している。	/	/
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	常に本人様の思いに耳を傾け状況に応じてサービスの活用に努めている。	/	/
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事に参加させて頂いている。町内会の有価資源ごみの収集にも協力させて頂いている。	/	/
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時、苑の協力医の説明を行うと同時に本人様のなじみのかかりつけ医を設定されることも自由である旨を説明している。協力医の訪問診療は月2回、必要時や緊急時は常に連絡が取れる体制が出来ている。又、定期的な訪問歯科の口腔ケアも取り入れている。	月二回の内科・口腔ケアに関する歯科の訪問診療があり、日中の看護師によるサポート体制と共に利用者の健康管理に努めている。体調コントロールや服薬管理に努め、水分補給や湿度調整などに加え、面会者への手洗い・うがいの奨励で感染症予防対策に配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎朝の申し送り時に日々の気づき・変化も見逃さず連絡をとるような体制ができています。協力医への報告も密に行われ早期発見と治療に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームの生活・医療等の情報提供を行い、安心して治療が行えるように整えている。また入院中、病院を訪問したり電話にて連絡を行い本人のADL、体調面の情報を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時には「重度化」についての説明を行い、必要時には家族様や医師・職員と話し合いを持ち、施設としての対応を十分納得して頂くまで行っている。	日頃から重度化予防にも努め、家族ほかとその都度よく話し合い、必要に応じて方向性を見極め、最期までその人らしく過ごせるよう親身になった支援を心掛けている。医療機関との連携やバックアップ体制も整いチームケアの充実を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故対応マニュアルがあり、急変・事故発生時に対応できるように学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練を毎月5日～9日に設定して避難訓練を行っている。3月の運営推進会議では消防署の方に来苑して頂き「災害対策について」の講座をして頂いた。備蓄品、最低3日分の食料、炊き出し用プロパンガス、簡易トイレ等備えている。	毎月、利用者も参加する自主訓練を実施し職員間で防災および減災意識を高めている。運営推進会議でも地域ぐるみの取り組みを強化し、活発な意見交換がなされ相互の協力体制を整えている。緊急連絡網の確認や防災備品の点検など更なる意識向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	月1回のスタッフ会議で「虐待の芽チェックリスト」を記入し、1か月の介護業務を振り返り日々の業務を見直すよう努めている。	利用者が個人として尊重され、その人らしく過ごせるように、日々の気づきとして、反省・目標を加えたチェックリストに記し職員間で共有している。時と場合に応じた言葉掛けに配慮するなど、月毎のスタッフ会議他で接遇に関する振り返りを行い職員間で研鑽を積んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員と1対1になる入浴時はくつろいだ気持ちになられ自然な思いを語って頂ける事が多く、できるだけその思いを具体化できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	センター方式の中で暮らしの情報(私の暮らし方シート)で本人・家族より伺ったなじみの暮らしが継続できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	更衣時には自分の好みの洋服を選んで頂いたり、訪問理美容に来苑して頂き、いつも綺麗にいて頂くよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	3食職員手作りの食事は、色合い良く食欲をそそる様に、また旬の物を取り入れ季節を感じて頂けるようにしている。	栄養バランスや彩りに配慮し、旬の食材を取り入れ温かみのある手作りで提供し、話題と共に楽しみながら、食事が元気の源となるよう配慮している。行事食や誕生日などリクエストに応じて好みのメニューで祝い、和やかな時間を共に過ごせるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の必要水分摂取量は、1日1500ccを目標とし、水分量、食事量を記録し一人一人の咀嚼、嚥下状態に合わせた食事形態に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケア時は職員の仕上げ磨きを行い清潔保持に努めている。月2回協力歯科医院より訪問口腔ケアを受診され口腔内のチェックをされている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で個々のリズムを把握し、トイレ誘導を見直し、紙パンツから布パンツへの移行に努めている。また、利用者に適したパット等を模索し、ご家族に提案し使用している。	個々のパターンやタイミングを見計らい、トイレ誘導し自然な気持ちの良い排泄習慣を心がけている。パッド委員会で話し合い、各々に適したパッド対応や布パンツへの移行など、日中の活動量を増やし筋力の維持に努め自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	繊維質の食材を出来るだけ多く使用し、朝食には必ず乳酸菌を提供し適度な運動を働きかけながら自力排便できるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご希望の時間帯に入浴できる配分はできないが、日を変える工夫は行っている。入浴時に気分が乗らずお断りされる方には世間話からはじまり入浴への工夫をしている。	週2～3回を目安に、体調や意向に合わせて気持ちよく入浴できるよう心と体のリラックスに配慮している。利用者と本音で話せる機会としても個別ケアに反映させ、各々に適した柔軟な対応で支援している。保湿クリームを使用し季節毎の肌の状態を保っている。	

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>リビングホールで傾眠されている時は声掛けをし、ご本人の楽な姿勢で休息できるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬局と連携を取り、薬の飲み合わせや副作用について説明を受け確実な服薬支援をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>役割を持ち、生活に張り合い・達成感を感じられるような関わりを心掛けている。センター方式を用いて個々の嗜好の把握に努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>近隣に散歩に出掛け季節を感じて頂けるよう支援している。また、家族の協力もあり、気分転換にドライブに出掛けられたりしている。</p>	<p>日常的な散歩に加え、近所の花を鑑賞するなど気分転換や外気浴に努めている。中庭にベンチを出して日光浴を楽しんだり、土を耕して栽培した野菜を収穫し、職員と共に楽しみながら外気に触れる工夫を重ねている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ご家族より入居時、事務所で小口現金としてお預かりして必要時使えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自分より手紙を出されたりされることはないが、届いた手紙はご本人に手渡している。電話がかかって来た時はご本人につなぎ心行くまでお話して頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースはいつも清潔に気をつけ、又、温度湿度管理を行い気持ちよく過ごして頂けるよう配慮している。	平屋造りの構造を活かし中庭を広く設け、風通しや採光が良い。リビングも開放感があり、季節の花や手作り作品を飾り家庭的な雰囲気、ソファで寛ぐ姿や談笑の様子が伺えた。中庭の菜園では植物や野菜を育て、一緒に収穫を楽しめる憩いのスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはソファやテレビを設置し利用者様同士でお話を楽しんで頂くよう配慮している。居室で一人ゆっくり過ごしたい時は無理強いせず対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、好みの物や自宅で使用されていた馴染みの物を持参して頂くようにし、居室が居心地良く落ち着く場所になるよう配慮している。	家庭に居るような雰囲気づくりや、各々の愛着のある品々を持ち込み、その人らしく落ち着いて過ごせるよう配慮している。個々に合わせた動きやすいシンプルなレイアウトや清潔感のある居室の環境維持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	独歩の方や車椅子の方が移動しやすいように廊下やリビングを広く、またトイレにはファンレストテーブルを設置して安全を確保し、自立した生活が送って頂けるよう支援している。		

V アウトカム項目(西ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑五日市八幡

作成日 平成30年 6月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	外出、帰宅願望のケアの取り組み。	本人の表現の一つ、心の声として捉え支援していく。(再度の取り組みです)	職員が情報を共有し、本人に適した対応を職員同じ対応を行う。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。